

恋の場外乱闘

30歳目前、もう手段は選ばない。恋愛成就を求めて奔走する、覆面ライターの顛末は…

以前このコーナーで「外国人のハニーが欲しいっ！」と京都市中を奔走したことがある。外国人御用達のバブヤバーを4軒ハシゴするも、ミゴトに皆さんオンナ連れ。む、無念…。というワケで今回は思ひない私のリベンジ編。

愛しのピーさん編



友人の紹介で、ピーター・マッキントッシュさんという殿方と念願のデートを敢行することに。「最近、フリーになっちゃったらしいぞ」と友人からも聞いている。「えっ、あの人かいな?」、プレザーにパーバリーのタイ、腕にはロレックス。立派なジェントルマンである。



でも、愛車はママチャリ。「コレ、オープンカーノボルシェヤナン、ホナ、イコカ」。口を開けば流暢な関西弁、ツカミもデキる。この人一体何者だ? 「出身ハ、カナダ。プロノサッカーセンシユヤッテン。今ハ舞妓芸妓ノ写真撮ッテ、外国ノメディアニ紹介シテル」



ほか通訳、ガイドの仕事をごなし、華道、書道、日舞をたしなむ。好きな作家は谷崎潤一郎に有吉佐和子。ことに日本の文化に関してはどっちが日本人だか分からない。出会った頃は桜の季節。しばし花見を楽しみながら青い目の紳士と語り合う。博識の彼に私はうっとり。



と、ふと彼の手元を目を遣れば、あれ、その左手薬指のワッカはなに? フリーちゃん、ピーター! 「最近、高校ノ先生辞メテ自営業ニナッテン」。おい、そっちのフリーかよ! ハズそうとしてもムダだよ。ピーター、春は出会いと別れの季節。わずか1時間半の恋でした。(涙)。

●ピーターさんのお仕事ぶりはコチラで、
<http://www.petermadokazu.com/>

トツキり好きは料理だけにアラス!
できたての甘いワッフルが人気のブーズ。一人で切り盛りする寺田氏の隠し玉は、一見フツのフレンチトースト。卵液に浸して焼くだけの簡単フレンチと思いきや、コイツがなかなか手がかかる。卵は牛乳と混ぜる前にいったん泡立てアクを除去。フライパンでバターを焦げ目をつけて、甘い香りにヨタレが出て、まだまだあすけ。さらにオーブンでこんがりパリッの画電点購とバナナアイスの装いが待っている。いつもニコニコと機嫌の寺田氏がさらにクリエイティブな気分の時だけ登場する。幻のメニューだ。そんな気分は店も飛び出し、6月には木屋町H.A.T.I. H.A.T.I.でドラッグクイーンの新ショー演出を初敢行。甘いだけじゃない魅力、それもまた裏メニューなり。



気まぐれフレンチトースト 680円
うちのソーダ 時価



●Pooh's?… ブーズ
京都市東山区東大路通古門前下松原町294
075-541-3002
12:00~20:00 (L.O.19:30) /不定休



裏メニュー

「お友達、それは一つの店に密着し、通信のゆるい関係性を手にした者。そして彼らだけが許された食物。そう、それが「裏メニュー」。あの話題のセリフ「マスター、ゆつものね」以上に世人の羨望を掻きむしる魔性の食物」

こんなありません

HATI HATIでの初イベントは6月8日22:00~。ドラッグクイーンのスティーブを自主にライブも多数。前売りチケット2000円はブーズでも販売中

I am a みやげマニア!!

100年後にも残したい 京都みやげファイル

ひとピンで10人分! 濃縮された職人氣質と蜜の味



冬期はあまぎけ1000円を製造。こちらは4倍の水またはお湯で薄める。製造のみで販売はしていないので、販売店についてはお問い合わせを

全国の40、50代のおじさま方にこのドリンクを渡せば、瞬時に幼少期を想う遠い眼差しになり、むせび泣くこと受け合い。それは「冷しあめ」とは、往年のちびっこ向け大スターだったのだ。その偉大な飲み物を京都で造り続けるマルキ商店は、昭和20年創業。「絶対ヨソの冷しあめには負けたい」と自負する3代目。大きな蜜にベイスの麦芽あめを注ぎ、6種類をブレンドした天然原料の糖蜜を加え、薪の火で5、6時間じっくり煮詰める。仕上げに高知産の土しょうがの搾り汁を入れることで、甘さの後にシャープな清涼感がやって来る。炭酸飲料も少ない時代の日本人の知恵が詰まった冷しあめを、懐古飲料にとどめるのはまだ早くつよ。

●マルキ商店 京都市下京区梅小路東中町67 075-312-9300



冷しあめ

300ml入り1000円。5倍の水またはお湯で薄めれば、夏は爽やかな冷しあめになり、冬ならあめになるという便利なもの



ボツった「わ」

和食に和菓子にワビサビ、京都をイメージする「わ」ワードは様々。けれどホットかつコアな京都の姿を伝えるに、モリカゲシャツに合う存在ナンということでこの結果。がしかし「割れなべに綴じ蓋」のたえにもあるように、その心意気に見合う自分になるのも大切なこと。京都の「若者」よ、お互い日々の精進いたしましょう。

かもがわーワイシャツ

風とりどり@Kyoto

「ワイシャツ」と聞けば京都の洒落者なら真っ先に名を挙げる「モリカゲシャツ キョウト」。カジュアルシャツのオーダーメイドという新機軸のもと、シャツ一本で戦うお店。今でこそ既成ラインも並ぶけれど、生地からタックまで吟味したマイオーダーにはウレシ涙を隠せない。味をしめたら他のシャツは袖を通す気にならない、とよく聞く話。

さて「部屋とYシャツと私〜ん♪」って日曜の午後のほんわか曲が大流行したのは10年前。透明感ある平〇愛理の歌声とは裏腹に、その歌詞、実は結構ヘビー。「飲み潰れてもきっちり帰ってこい」だの、「イビキと歯ぎしりがうるせー」だの、「浮気相手は私と同じ名前で呼べ」だの、かなり荒んだ雰囲気。そんでダンナは浮気相手に裸Yシャツ1枚着せてご乱行。だとすりゃすっかり「部屋でワイセツな私」なんちゃって。つくづくシャツも恋人も自分だけのフルオーダーがいいよねと願う今日この頃の尻取り探索隊シタ。